

「試してガッテン」不潔な料理法

ㄥㄥ 真理は隠れている。探し出すのはあなた自身だ。 小野しまと

☆ ☆ ☆

NHKの番組「ためしてガッテン」（片栗粉の極ウマとろみ術、11月28日放送）を見て、大変なショックを受けた。日本人の清潔意識はこんなものだったのかと驚き呆れたしだいである。

片栗粉の「とろみ」味をどうやって出すかということを追求めた番組だったが、最後は、料理自慢の母親と料理未経験の8歳になる息子が、中華スープ作りの腕を競うという趣向だった。

息子のほうは途中で時間が余ったため、机の上を手で擦ったりして遊び始め、スタジオに現れた獅子舞を相手にふざけまくった。床に両手を突いた四つん這いの姿になって、獅子舞の真似をしたのである。

そして、驚いたことに、その手で片栗粉の溶かし汁を掬っては、スープの中に入れ始めたのである。「中国拳法の指使いですね」などという解説まで入っていたが、床を這った指でじかに汁をしゃくっているのを見たら、同じNHKで放送している清潔マニアの名探偵モンクだったら、さぞかし悲鳴をあげたであろう。

モンクならずとも、この子が作った中華スープなどとうてい口には入れられないというのが、一般的な反応だと思うのだが、これまた驚いたことに、審査に当たった料理人が旨そうにその汁を何杯も飲み、この子の作品に軍配を上げたのである。

母親が作ったスープの味見をしている段階から、この料理人は、隣りに置いてある子供の作ったスープをしきりに気にして、何度も覗き込んでいた。

スープの中には黒い粒がいくつか混じっていたので、料理人は汚れを気にしているのかと思っていたら、違っていた。彼は、子供のスープを美味しそうに味見したあと、勝利を知らせる札を持ち上げたのである。

実は、この料理人は、事前に「中国拳法の指使い」とやらを子供に伝授していたそうである。しかし、指使いを教えるなら、それと同時にその指を清潔に保っておくことを教えるべきではなかったのか。それが料理のイロハであることを。

私は、以前に「人間はなぜ食器を洗うのだろう」とか「清潔な料理を食べさせたい」という題でブログを書いたことがある。そのブログの中で「清潔も味覚のひとつ」であることを強調した。食べ物のオイシサは清潔にもあるということを書いたかったのである。

清潔は、単に食品の殺菌とか安全に関わるだけではなく、「食」としての完成度にも関わっていると言わなければならない。

NHKのホームページには「ためしてガッテン」の趣意書が載っているが、そこには、この番組

が特に力を入れているのは「食」と「健康」であると謳われている。とすれば、その二大柱にとっての「清潔」の意味をもっと明確にする必要があるのではないだろうか。

私がさらに驚いたことは、この番組に出演していた山瀬まみや酒井和歌子など三人のゲストが、やはり「美味しい」と口々に褒めたたえながら、子供の作ったスープを飲んでいたのである。一人として不潔さが気にならなかったのであろうか。

番組のシナリオがすでにできていて、料理人やゲストは、自分の感情を押し殺してでもそれに従わねばならないのだとしたら、制作者側の発想が表面に出てくるだけで、観る側にとってはあまり魅力のある番組とは言えないであろう。

最近、そういう料理番組がテレビでもよく見られるようになった。とりわけ、スタジオ内で実際に料理を作る場面では、家庭ではやらないような清潔を無視した行為を、ゲストたちが筋書き通りにやっているように思えることが多い。

とりわけ、料理のイロハ、つまり食べ物を清潔に扱うことを知らない世代が、勝手気ままに食材をいじったり、食器を掴んだり、料理の味見をしたりする姿が目につくのである。

マニキュアを塗った爪や指輪をはめた手で食材を混ぜたり、食器の内部に指を突っ込んでやたらと触りまくったり、自分の舐めた箸や匙を料理の中に戻したりと、不潔な行為を数え上げればキリがない。

私は、清潔な料理法を教えないうちに、子供に料理遊びをやらせるのは良くないことだと思っている。お祭りが何かの行事で、子供たちに大きな海苔巻きを作らせたり、学校で自分たちの給食を作らせたり、テレビ局で面白半分料理をやらせたりと、色々な試みを目にするが、結局はドロンコ遊びの延長だ。

「飴細工が町から消えた」というブログでも書いたように、食べ物をオモチャにしたり、細工に用いたりするのは邪道で、商売としては廃れる運命にある。それは、食べ物をショー化することにつながり、「食べ物」とただの「物」との区別が付かなくなるからだ。

「ためしてガッテン」の番組でも、片栗粉の水溶液を満たした桶の中を何人かに歩かせる場面があったが、担当の女性アナは「食べ物なのにゴメンナサイ」と叫んでいた。これはまさに「食べ物」をただの「物」としてショー化することへの、或る種の罪悪感の表れと受け取ってもよいであろう。

最近、日本や中国の食品産業で不祥事が続発しているが、ここにも、「食べ物」を単なる「物」と混同し、商品化してしまう誤りがあると言える。

テレビ局は、こういう傾向に歯止めをかけるためにも、食べ物にとっての「清潔」とは何かというをもっと真剣に考え、人々を啓発する方向に進んでも良いのではないだろうか。

前回のブログ「潔癖症と笑うなかれ」では、韓国ドラマに出てきた「潔癖症」の人物に注目した。こういうタイプは、「古い日本人の行動を思わせる」と書いたのだが、今回、日本人の清潔意識の衰退はここまで来ているのかと、改めて思わされたのである。

フランスの料理番組で、野菜を洗わないで使っているのを見たことがあった。フランスの知人が

このことを嘆いていた。清潔は文化のバロメータと言われるが、各国のテレビや映画を見比べると、清潔の扱いひとつでも、その国の文化の有り様がよく判るのである。

[2007/11/29 magmag]